平成27年度
英語教育強化地域拠点事業
＜県指定＞公開授業研修会

会 場 校 ：太田市立旭中学校

拠点地域（太田市）と旭中学校の研究主題

意見や考えを伝え合う生徒の育成

～即興的に伝える活動を意識した授業内容の工夫を通して～

太田市の
おおたん
です！

意見や考えを伝え合う生徒の育成の基本的な考え

- 外国語科の一番の目標は、「生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成」であり、実際に英語でコミュニケーションをすることによって育成される。
- 事前に準備した原稿をそのまま読んだり、暗記したことを発表したりするだけでは、このような能力は十分には伸ばすことができない。そのため、「自分の意見や考えを英語で相手に伝えることができた」「相手が英語で表現していることがわかった」と思えるような言語活動を取り入れ、工夫することを研究の主題とした。
- この考えは、群馬県教育委員会が出している学教教育の指針の英語科の重点でもある。

即興的に伝える活動を重視した授業内容の工夫とは？

- 即興的に伝える活動は、事前に原稿等の準備をせず、なるべく文字を介さずにその場で意見や考えを伝える活動と考えた。
- 生徒たちの将来はグローバル化がさらに進み、外国での生活はもちろん、日本にいても英語を使ってコミュニケーションを取る機会が増えてくる。
- 間違いを恐れずに、文字などを介さず意見や考えを相手に伝える活動を「即興的に伝え合う活動」と捉え、意図的に授業で取り入れることで、コミュニケーション能力を高めることをねらいとしている。

公開授業の構想

授業づくりで大切にしたこと

Warm-Up（帯活動）で即興的に伝える活動 “Back to the Board”を取り入れる

- ペアになり、黒板を背に立つ生徒Ａ、と黒板の方を向いている生徒Ｂで行う。
- Ｂは教師の出す写真（今回は有名なアニメの人物）を見て、英語でヒントを与える。Ａはそれを聞いて、答えを当てる。
- Ａが正解したら、今度はＡがヒントを出し、Ｂが答えを当てる。

この活動を初めた頃は、単語が飛び交っていたが、文でヒントを与えるよう呼びかけたところ、文で言えるようになってきた。

授業を英語で行う

- 文部科学省のグローバル化に対応した英語教育改革実施計画では、グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方として、中学校において「授業を英語で行うことを基本とする」を挙げている。
- そこで、授業を英語で行うために次のことを心掛けた。

●英語で説明を短くし、生徒の発話量を確保する。

●実際に対話例等を見せたり（デモンストレーション）、ピクチャーカード等を使ったりして、視覚化する。

●クラスルームイングリッシュで、基本的な指示に慣れさせる。

小中の連携を意識した活動にする

- 小学校では、「音声指導」「場面設定」「相手意識」を大切にした授業をしている。これらを中学校でも引き継ぐために、次のことを心掛けた。
- 音声指導…単語や定着のための言語材料を練習する際、リズムやテンポをよくして、楽しみながら反復練習するようにした。
- 場面設定…実際の場面という設定はできなかったが、自分が誰のことを好きかを当てさせるクイズを行った。
- 相手意識…原稿をもつと、そればかりを見てしまうので、原稿は作らず即興的なやりとりをすることで、生徒に相づちやアイコンタクト等を意識させ、自然な会話になるようにした。

題材（単元）構想を工夫した①
題材の終末に既習事項を活用した言語活動を設定

- 公開授業は、doesの疑問文・否定文と三単現の-sを新出言語材料を扱った題材であった。その終末には、does等の既習事項を使って友達の好きな人を当てるクイズを出すという言語活動を３人組で行った。

（例）A : I like the man.(Aの好きな人の写真を裏にして見せる)

B : Does he sing?

A : No, he doesn’t, but he likes sports.

C : Does he like tennis?

A : Yes, he does. He plays tennis well.

B : Is he Kei Nishikori?

A : Yes, he is! （裏にしていた写真を見せる）

題材（単元）構想を工夫した①
題材の終末に既習事項を活用した言語活動を設定

- もし答えが当たったら、その人について３人で会話を続ける。

（例）A : Yes, he is! （裏にしていた写真を見せる）

Do you know him?

C : Yes, I do. I like him, too.

A : Really!? How about you, B?

B : Sorry, I don’t know him. How old is he?

A : He is twenty-five.

C : His Air Kei is very cool. ・・・

（教師が指示を出すまで、会話を継続させる）

題材（単元）構想を工夫した①
題材の終末に既習事項を活用した言語活動を設定

- 本題材で学習した言語材料だけを使うようにすると、ただのパターンプラクティスになってしまうので、三人称だけでなく今までに学習した一人称や二人称のもの等も使って、会話を継続するように言語活動を工夫した。
- どうしても会話が続かないときに使えるつなぎ言葉を、題材の中にちりばめて紹介・練習をした。

（例）・Uh-huh.（相づちをうつとき）

・Pardon?（聞き返すとき）

・Really?（本当にというとき）

・Give me a hint, please.（ヒントがほしいとき）

・Give me more hints, please.（もっとヒントがほしいとき）

題材（単元）構想を工夫した②
即興性と正確性を両方を高めていく工夫

- 意見や考えを伝え合う活動では、原稿に頼ることなく即興的に英語で伝え合うことが必要だが、その際は間違ってもいいことを前提にしないとなかなか生徒は発話しようとはしない。しかし、だんだんと正確性も高められるようにすることも必要である。
- そこで、即興的に話をさせた後で、生徒が会話した内容を書く活動を取り入れ、間違っていたことを修正したり、言えなかったことを書けるようにしたりして振り返る活動を設定する。
- これらを交互に取り入れることで、少しずつ間違いを減らし、言えることを増やしていく効果がある。

即興性
話すこと

→

正確性
書くこと

→

即興性
話すこと

題材（単元）構想を工夫した③
パフォーマンステストで話す力を評価する

- 授業の言語活動の中だけで、一人一人がどれだけの内容や量を話しているのかを見取ることは大変難しい。そこで、到達目標を踏まえたパフォーマンステストを定期的に実施し、達成状況を評価していく。
- 生徒にとって、「英語で～できるようになった」と達成感を味わえるように、到達目標を達成できるような授業を計画し、授業中に発話や練習の時間を確保することが大切である。
- ＡＬＴと連携をして、役割を明確にすることも大切である。

公開授業研究会

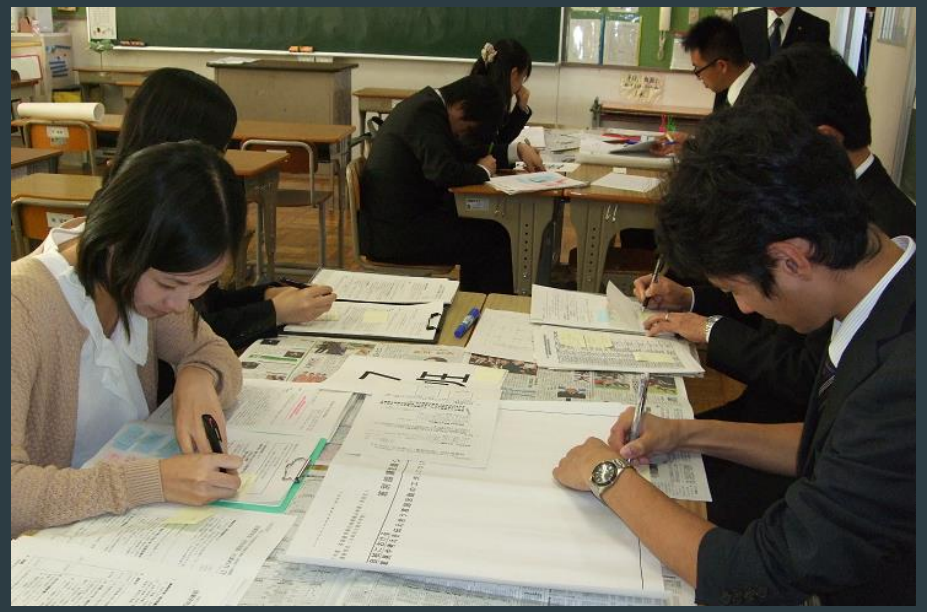
２つのテーマで班別協議

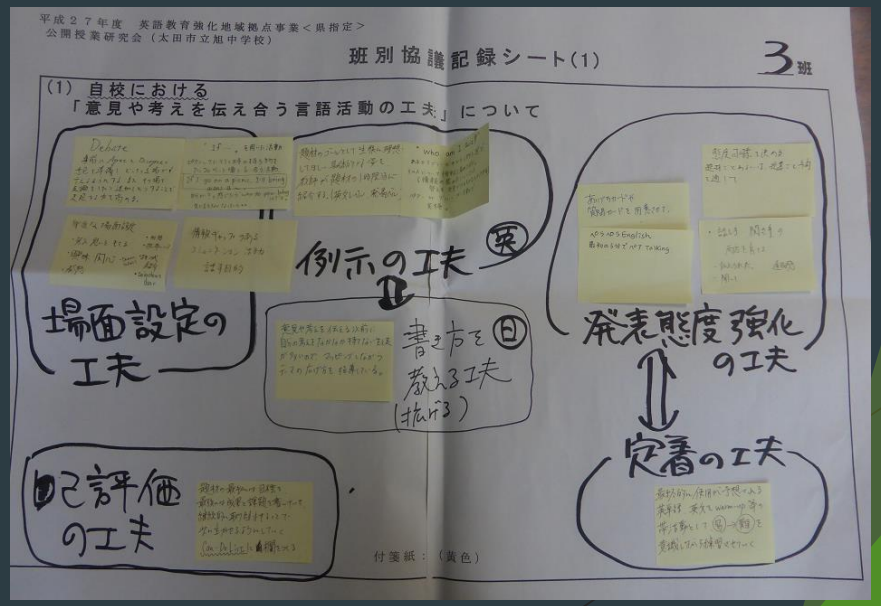
(1) 自校における「意見や考えを伝え合う言語活動の工夫」について

(2) 旭中学校の公開授業について

自校における「意見や考えを伝え合う言語活動の工夫」について

- 参加した学校の先生が日頃行っている言語活動の中で、意見や考えを伝え合う活動で効果があったものを紹介し合い、生徒たちにどんな力を付けさせたらいいのか、どんな活動が有効なのか等を考えた。



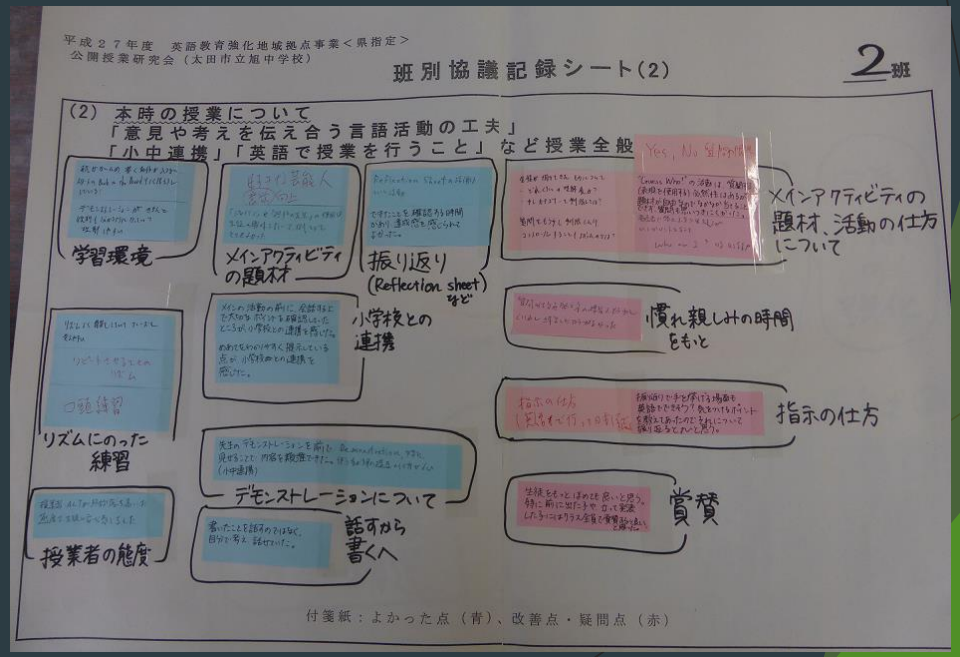


参加者の感想（自校の取組について）

- 班別協議で小学校の先生と一緒になり、実態を教えていただけて本当によかった。
- 班別協議の自校での言語活動の工夫が参考になった。様々な言語活動があり、取り入れていきたい。
- パフォーマンステストでのALTの先生の活用の仕方を聞くことができ、参考になった。
- 他校の取組を知ることで、自分の授業改善に取り入れやすい。もっと多くの人と意見交換できるとよかった。

公開授業の振り返り
よかった点や改善点等について

- 公開授業でのよかった点や改善点を出し合い、付箋紙に書いて記録用紙にまとめた。公開授業を通して、参加者自身の授業を振り返ることもできた。



参加者の感想（授業について）

- 太田市の研究テーマは、今後の英語の授業を考える際に欠かせない視点だと思う。今日はそのような視点から授業を参観・協議でき、勉強になった。
- 中学校での現在の取組の様子が分かった。小学校での教科化に向けて実践していることと、中学校での高度化に向けて４技能を身に付けさせることが確実に連携して取り入れられていることが分かった。書いて準備をした文を読むのではなく、目の前にいる相手に伝える意識が大切だと感じた。
- 英語を書かないでそのまま発表するという訓練は、すぐには身に付かないが、繰り返し行っていくことでできるようになると感じた。
- 生徒が主体的に取り組めていた言語活動だったと思う。
- 即興性の定義について、改めてじっくり考えたいと思った。
- 言語活動は、生徒が自分の意見を自由に伝え合うことも必要だが、ある程度しばりを入れないとうまく機能しないのではないかとも考えた。

次年度に向けて

- 本年度は研究の途中であり、まだ十分に成果を出すところまでには至っていない。
- 特に、「即興的に伝え合う」が十分にできるというレベルに到達するには、かなりの時間を要すると思われる。
- しかし、即興的に伝え合う力を伸ばすことをねらいとした言語活動を計画的・継続的に行っていくことが大切であることを実感できた。
- また、「即興的に話すこと」と「正確に書くこと」等を繰り返すことで、スパイラルに両方の力を高めていく効果があることに気付けた。
- さらに、班別協議で参加した先生方の意見やアイデアを取り入れ、さらに授業を充実させ、研究を深めていきたい。
- 貴重な意見をいただき、ありがとうございました。